

## 令和3年度 第1回高浜町総合教育会議 会議録

開催日時	令和3年10月1日(金)	開会9時30分 閉会11時12分
開催場所	和田小学校	
出席者	町長 野瀬 豊 教育長 釣本 眞史 委員 福田 敏弘 委員 濱野 秀子	副町長 西嶋 久勝 委員 江川 雅也 委員 田中 温子
関係者	和田小学校長 畑田 憲克	
事務局	【総合政策課】 課長 永禮 義己 【教育委員会事務局】 局長 千坂 浩一郎 主査 竹中 絵里子	課長補佐 一瀬 正憲 次長 小林 英文
1. 和田小学校視察		
全員	2限目授業(1・4・5学年)および施設を見学	
2. 町長あいさつ		
野瀬町長	<p>本日は、和田小学校の授業を拝見させていただき、その様子を題材として意見交換を行いたい。</p> <p>タブレットの授業とALTを活用した英語の授業を拝見させていただいたが、いわゆるIoTやDXの波は大人社会にも教育現場にも押し寄せている。また、英語教室については、自分たちの時代から比較すると低年齢化してきており、だんだんと当たり前になってきている。</p> <p>そういった意味では、いろいろなスキルを子どもたちが身に付けていくことのできる環境が整えられてきているように見受けられる。行政としても、これらに必要かつ有益な予算をつけていかなければいけないと考えている。</p> <p>他方、DX至上主義になってきている。デジタル化が手段でなく目的とならないよう、社会全体にも気を付けていかなければいけない。</p> <p>タブレットを活用した授業や英語教育も含めて、日本の独自の部分やアナログの部分で大事な部分もあるため、そのバランスについても意見を拝聴したい。</p>	
3. タブレットを活用した授業について		
事務局	資料を基に説明(現在の学習用タブレットの整備状況や使用方法、今後の整備に要する費用などについて)	
江川委員	4年生の授業において、タブレットの使用方法が様々であった。タブレットの使い方はどのように教えているのか。	

畑田校長	<p>カリキュラム上、タブレットの使い方だけを教える時間はとれない。</p> <p>そのため、授業を進める中で使用しながら操作方法を身に付けさせている。操作方法を教えることに重きをおくと、1時間の授業内容に2時間かかる。ただし、一旦操作ができるようになると、プリントの配付が不要になり、その時間分の短縮が図れる。ハードルが高い操作スキルについては、最初は粘り強く、今後、学年が上がった際に授業が楽になっていくことを考えながら取り組むように促している。</p> <p>特別に時間を取るわけではなく、授業の中で行っているため、習得に差が出ている。また、操作方法是子どもたちに選択させており、手書き入力かキーボード入力かなど、強制せず各々に任せている。</p>
江川委員	<p>今の回答から考えると、1人1台、低学年のうちから使わせていきたい。今回、1年生は1台を3人で使用しており、交代で使用するという状況になっていた。1年生から1人ずつ使い自分で直接操作した方が、段階的にスキルを身に付けていくことができる。</p> <p>早めに1人1台の環境を整えていくのが良いと考える。</p>
福田委員	<p>内浦小中学校が一番はじめに導入したと思うが、当初に拝見した頃に比べ、本日の4年生の授業ではかなり使いこなすようになっており、効果が出ていると感じた。低学年のうちは使いこなせないが、操作方法を習熟するという面では、早めに低学年から1人1台使えた方が良いと考える。</p>
濱野委員	<p>4年生の授業を拝見して、非常に効率が良いと感じた。1年生の3人で1台を使う状況においては、使いこなせる子が主導権を握り、使えない子は見ているだけとなることが想定される。全員が使いこなせるようになるためには、1人1台ある方がよいと考える。</p> <p>タブレットは、毎回授業で使われているのか。使用しない授業もあるのか。</p>
畑田校長	<p>使用しない授業もある。特に低学年では、回数的に少ない。文字入力などが難しいため、写真を撮影するなどの操作から慣れていくようにしている。ネットによる調べ学習なども難しいため、できる操作で少しずつスキルを身に付けさせている。</p> <p>また、1～4年生は40台を共用で使用している。事前に各担任が調整し、譲り合って活用している。</p>
田中委員	<p>本日のタブレットの授業を拝見し、自分たちの頃と全く違い、驚いた。自分たちが受けてきた授業は受け身であったが、今は自分たちが学んだことを意見交換しながら一人ひとりが授業を理解し、進めている。このようにして未来の子たちが育っていくのだと感心した。</p> <p>1年生は3人で1台を使用していたが、取り合いせず上手に使えており、子どもたちなりに考えて使用していることもうかがえた。</p> <p>興味のある子はいろいろと操作していることも分かったので、可能であれば1人1台の状況をつくることにより、できることが増えていくと感じた。</p>
教育長	<p>4年生の授業の様子は、自分の現役の頃とは異なっており、算数で、いきなり式を伝えていた。自分が教壇にたった頃は、式を求めさせることが第一であり、そのためにどのような考え方をするかをシェアしながら進めていたが、いきなり式を伝え、なぜこの式が成り立つのかを考えさせる授業に変わっていた。そして、自分の意見を必ず持たせていくという進め方であった。</p>

<p>教育長</p>	<p>このように自分の考えをシェアするためにはタブレットを使用するという方法は、一人ひとりの考え方が明確になり有効的である。</p> <p>日本と海外の教育は異なり、日本は式に対応する答えを求めるが、外国では答えに対する式を何種類も挙げ考えを深める。このような考え方も、タブレットなどを使用することにより、変わってきていると感じた。</p> <p>皆さんも、自分たちの頃と、今の子どもたちの学んでいる手法の違いを感じ取ってもらえたと思うが、タブレットですべての教育が成り立つわけではない。SNSでのいじめや事件なども発生していることから、モラル的なことも教育していかなければならない。また同時に、ゲームのように、都合よく人生もリセットをかけることにより戻せるような錯覚を起こす子どももいるという意見も聞く。これらのことを防ぐためにも、自然や地域学習、体験活動を学校教育の中に織り交ぜていかねばならない。自然は、自分の都合の良いことばかりではなく、我慢や辛抱の力も身に付けることができる。その両面を上手く織り交ぜながら教育を進めていかねばならない。</p>
<p>町長</p>	<p>皆さんからの、できることならば低学年から1人1台の環境を整えて欲しいという意見について、手法としては否定するものではなく、今後、検討していきたい。児童数が減っていることから、さほど大きな負担にはならないと考えるが、更新頻度が早いと想定されることから、導入時には国庫補助が充てられるであろうが、更新時については町単となることが懸念される。そのあたりのバランスも含め、検討しなければならないが、確かに1人1台整備した方が良いと考える。</p> <p>タブレットはあくまで道具であり、使いこなすことが目的ではない。使用することにより、時間短縮などの無駄を省けることは良いが、義務教育課程の小中学生にクリエイティブな部分を教えることは無理がある。人間として必要な感性をつけることを大切にしたい。根本の部分が育つと、高校や大学に進んでから、クリエイティブな発想が出てくると思う。</p> <p>バランスを取りながら、これからの社会に対応するためには、IoTのスキルを身に付ける必要がある。タブレットなどに依存しすぎると、コミュニケーション能力が落ちるなどのデメリットもある。IoTをすすめるながら、アナログ感覚の教育や体験も大切にしたい。</p>
<p>畑田校長</p>	<p>学校としても、タブレットの使用による健康的な部分の懸念もある。長時間の使用は、視力低下や脳への影響があることを踏まえ、子ども同士で話す対話的な部分も大切にしていきたい。</p> <p>目的意識を持ち、タブレットを文房具として使用する感覚がベストであると考えている。学校での使用方法には気を付け、子ども同士の対話や教員とのやりとりを失わないようにしている。</p> <p>クリエイティブな部分でいうと、プレゼンテーション資料を作成する際には、写真を貼る位置を考えたり絵を描いたり、子どもたちが自分で考えながら進めている。これらの力は大人になってからも役に立つため、教員がヒントを与えながら使用させていきたい。</p> <p>アナログ的な部分は失ってはいけないと学校側も考えている。</p>
<p>町長</p>	<p>子どもたちには、今後、タブレットを社会で活用するために、使い方はしっかりと覚えて欲しいが、倫理観を持って使用して欲しい。危険因子を意識することが大事。</p>

畑田校長	使用に係る危険性などについては、計画的に、道徳の授業でも行っている。また、自宅への持ち帰りの際には、子どもたちに事前指導を行ったり、保護者へのお知らせを配布したりしている。今後も補っていききたい。
町長	注意して使いながらであれば、1人1台は理想。今後、検討していきたい。
江川委員	欲を言えば、タブレットの画面を共有する電子黒板の画面が小さい様に感じた。後ろ方の席の子は見えているのだろうか。
畑田校長	見にくいと思う。テレビはかなり前に導入されたもので、画面は50インチである。大きく映すためには、スクリーンを黒板に張り、プロジェクターを用意し、と準備が大変になってくる。テレビは便利で使いやすい。今後もっと大きな画面のものが必要になってくる。
江川委員	大きな画面のテレビも価格が下がってきている。もう少し大きい方が良いと感じる。
4. A L Tを活用した外国語授業について	
事務局	資料を基に説明(平成27年度以降のA L T配置状況や、その成果について)
江川委員	先ほどの授業での、カルチャーが紅茶と聞こえコーチャーと発する感じは、耳で聞いたものをそのまま書くことに繋がり、良いと感じた。 英語の授業は、発言や会話などを中学生くらいの照れが出る中で行うよりも、照れがない小学生のうちから積極的に自分から話す方が身につくと感じた。 少し気になるのは、リスニングのスコアが全国平均よりも低いのはなぜか。
事務局	分析はしていない。トータル的に全国平均を上回っていると捉えている。
教育長	子どもたちは日本語英語を耳にしており、リスニングは苦手なのかもしれない。A L Tが話す英語と自分たちが慣れている英語と違うのではないか。
福田委員	A L Tの配置が3名であるのは、嶺南では高浜町だけなのか。
教育長	おおい町と当町のみである。
福田委員	示されたデータから、十分成果が出ているため、このまま維持していただき、高浜町の子どもの英語力が伸びるとよい。 自分たちの時代は、外国人と直接話すことがなかったが、今は、コミュニケーションを取れる状態にある。これは何よりなことである。 A L Tの効果を感じているので、是非とも継続して欲しい。
濱野委員	小学校からA L Tを活かした授業を行っているだけでなく、保育所から行っていることに驚いた。自分たちの時代は、英語に苦手意識があったが、今の様に保育所から英語を取り入れていると、身近に感じたり好きになったり、そのような気持ちを持つことが大事。結果としても表れているため、とても良いことであり、今後も継続して欲しい。
田中委員	A L Tは、動作やリアクションが大きく、子どもたちがリラックスして英語に親しんでいる姿は、雰囲気良かった。身近に英語を聞いて育つ環境が良い。これからも継続して欲しいが、英語の授業が増えた分、何か他の授業で減ったものがあるのか。

畑田校長	指導要領が新しくなり、英語が加わった。トータルの授業数は変わらないが、英語が増えた分、減った教科もある。
教育長	<p>A L Tを3人配置できていることはありがたい環境である。英語よりも、まずは日本語をしっかりと学ぶべきという意見があることも承知しているが、自分としては、小さい頃から日本語も英語も取り入れて欲しいと考えている。保育所では、英語といってもゲームを通して、A L Tと楽しく遊ぶ。遊びを通して英語を感じる、といった活動である。これらのことを通じ、英語が心や頭に残っていくと考えている。</p> <p>また、A L Tと語学の勉強を通して英語が上手になるだけでなく、外国の文化や多様性を感じて欲しい。</p>
町長	<p>町単のA L Tも含め、県内において環境は整っている方であり、成果も出ている。このまま維持し充実させたい。</p> <p>子どもたちの語学力の向上には役立っているが、その反面、学力があがることにより、進学、就職し、子どもたちが他市町・他府県に転出してしまう恐れがある。日本のためには良いが、当町としては、人口減少策も練らねばならない。</p> <p>学校の授業で外国人の方と接することは効果的であるが、通常社会において実践する機会がない。今後、ワールドマスタースゲームズなどの開催の際には、恥ずかしさが薄い子どもたちに、臆することなくコミュニケーションが図れる様にして欲しい。</p>
5. その他	
事務局	<p>本日の視察の中で、校舎についてもご覧になられたと思うが、来年度以降、計画的に修繕対応を行っていく。国庫補助なども活用しながら予算化していくため、その際はご審議をお願いしたい。</p>
町長	<p>和田小学校の他、和田エリアにおいては、今後、保育所の改修も行わなければならない。今後、高浜小学校の建替えも検討していかねばならず、人口が維持できるような施策を行う予定ではあるが、日本の全体的に減るという大きな流れは変わらないため、今後10年20年後をイメージしながら、小学校のありようも考えていかねばならない。</p> <p>小学校や保育所について、長中期的な計画を策定しなければならないため、今後、機会があれば意見をお願いしたい。</p>

以上